

令和5年度教育研究活動報告書

氏名	原 卓史	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	教授
専門分野	日本近代文学		

I 教育活動			
本年度担当科目			
	授業科目		
学部	日本の文学、卒業論文、日本文学史、近現代文学専門演習、日本文学講義、日本文学講読		
大学院	日本近代文学特論		
II 研究活動			
現在の研究テーマ（3つまで）			
（1）坂口安吾・太宰治などの研究			
（2）歴史・時代小説研究			
（3）カストリ雑誌研究			
本年度を含む過去3年間の研究業績 R5・R4・R3			
R5 〈論文〉「白井喬二と報知新聞社－「富士に立つ影」と『大衆文芸』を中心に－」 （『尾道市立大学日本文学論叢』二〇二三年一二月） 〈書評〉「大原祐治著『戯作者の命脈 坂口安吾の文学精神』」（『昭和文学研究』 二〇二三年九月）			
R4 〈共著〉安藤宏・大原祐治・十重田裕一責任編集『坂口安吾大事典』（勉誠出版 二〇二二年六月） ※編集委員の一人として参加 〈資料紹介〉「『大衆文芸（第一次）』総目次」（『尾道市立大学芸術文化学部紀要』二〇二三年三月刊行予定） 〈事典〉「葉室麟」（『日本近代文学大事典』 Japan Knowledge Lib 二〇二二年四月執筆、 二〇二三年三月配信）			
R3 〈論文〉「坂口安吾「残酷な遊戯」論－鬼熊事件との関連について－」 （『尾道市立大学日本文学論叢』二〇二一年一二月）			
R2以前の主な研究業績			
（1）〈単著〉『坂口安吾 歴史を探偵すること』（双文社出版 二〇一三年五月）			
（2）〈編集協力〉越前谷宏他編『田中英光事典』（三弥井書店 二〇一四年四月）			
（3）〈論文〉「安吾と飛騨－「夜長姫と耳男」への道程」（『坂口安吾研究』二〇一四年一二月）			
（4）〈論文〉「坂口安吾「風と光と二十の私と」論－教室のなかの「私」／小説家になった「私」」 （『芸術至上主義文芸』二〇一四年一二月）			
（5）〈論文〉「坂口安吾「墮落論」論－武士道をめぐって」（『尾道市立大学日本文学論叢』二〇一六年一二月）			
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R3・R4・R5			
所属学会・所属団体 役職等と任期			
所属学会：日本近代文学会、昭和文学会、芸術至上主義文芸学会、表現学会、文体論学会、坂口安吾研究会、 横光利一文学会 役員等：坂口安吾研究会運営委員長（二〇一八年九月～現在に至る）、 日本近代文学会関西支部運営委員（二〇二三年三月～）			
IV 社会活動			
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）			
出前授業	1回		
（公開講座・後援会・出前授業に関するもの、その他特記事項があれば記入） 広島県立賀茂高等学校へ出張講義に出向いた。坂口安吾「墮落論」がなぜ第二次世界大戦直後に大きな反響をよんだのか、その説明を行った。			
2. 委員会及び協議会委員（本年度1年間の活動状況）			
	委員会等の名称	委員長・委員等の別	出席回数（回）
（2）尾道市以外	坂口安吾研究会運営委員会 日本近代文学会関西支部運営委員会		